令和8年11月10日　No.17

神戸中学校だより

〒513−0038
鈴鹿市十宮町1335
TEL:059-382-0305
FAX:059-382-3757

目指す学校像:『明日も行きたい・明日も通わせたい・明日も協力したい学校』

三重県の11月はいじめ防止強化月間です



早いもので、もう１１月となりました。朝夕の気温もぐっと下がって寒さを感じる今日この頃となりました。体調管理をしっかり行って過ごしていただきたいです。

さて、４月、１１月は三重県のいじめ防止条例にもありますが、いじめ防止強化月間として、県民の理解を深め、社会総がかりでいじめの問題を克服していくための啓発活動等の充実・強化を図る月となっております。そのため、本校職員も「ピンクシャツ運動」の一環として、ピンクのものを身に付け、改めて、いじめを生まない環境づくりやいじめを許さないという強い想いを自覚し過ごしていきたいと思います。各御家庭においても、いじめについてお子様と話をしていただける機会となればと思います。よろしくお願いいたします。

「ピンクシャツ運動」とは？

ピンクシャツ運動は、２００７年にカナダで誕生した「いじめ反対運動」です。運動のきっかけは、カナダの中学３年男子生徒がピンクのポロシャツを着て登校したことでいじめられ、それを知った高校生が、ピンクシャツを大量に購入し、メールや掲示板で友人知人などに翌日に着用することを呼びかけ、翌日呼びかけた以上の学生がピンクの服で登校し、学校がピンクに染まりいじめがなくなったことからです。

1年生の人権学習　～人権教育センターを訪問して～

１年生で人権学習の取組が始まりました。第１時では各クラスで〝人権を大切にするには〟というテーマで学習をスタートさせました。第２時では、人権を大切にし、差別をなくすための取組を進めている鈴鹿市人権教育センターを訪問し、職員の関先生から、ご自身の過去のことで後悔していることや人権を大切にするためにどうすべきか。また、差別やいじめをなくすために意識して取り組んでいることなどのお話をしていただきました。



【人権教育センター訪問後の生徒の感想】

○一番身近な人権が自分だということがわかりました。もっと人権について考えて、一人でいる人がいたら声をかけるように「心がける」ではなく「行動する」をしようと思いました。

○「人の世に熱あれ　人間に光あれ」の言葉は全国水平社の文からきていて、人権教育センターは、この言葉をモットーにして活動していることがわかった。また、石碑は本の形をしていると初めて知ることができた。「私の人権」を大切にすることが人を守ることにつながると知ることができ、これから自分自身も大切にしようと思った。

○今まで何回か人権について考えたりしたことはあるけど、何かに参加しようと思ったことは正直ありませんでした。でも今日、関先生の話を聞いて、私も何か人権に関する取組に参加してみたいなあと思いました。周りの人や友だちの人権を守るのも大切だけど、自分の人権を守るのも大切と聞いて、自分のこともちゃんと大切にしていきたいと思いました。人権教育センターにまた行きたいと思います！

○一人になっている人がいたら、できるだけ話しかけにいきたいと思いました。だけど言い方によって変わってしまう言葉もあるから考えて行動したいし、これからも「みんなで支え合えるクラス」にしていきたいと思いました。言い方や伝わり方によって嬉しい時と嬉しくない時があることを改めて学びました。

○人権を大切にするためには、まず自分自身を大切にし、そのうえで他の人を気付かうことが大事だとわかった。クラスで「ん？」と思う言動があったら声をかけていきたいと思った。

○今日、関先生の話を聞いて、まずは自分を大切にしてみようと思った。自分の考えや気持ちをもっと発信していこうと思います。でも、自分ばかりじゃなくて他の人のことを気にかけたりしていきたいと思います。あと、言葉選びにも気を付けたいと思います。自分は、励ましているつもりで言ったり、おもしろく言ってしまったりしても相手は心が傷つくかもしれないので言葉を選ぶのは、気持ちと言葉をよく考えて話したいと思いました。やっぱり話を聞いて、人権って大切やなあって思いました。なので、今日のことをこれからも活かして『人権』や『人』を大切にしていきたいです。

○人権とは何なのかという問題が一番難しく、事前に学校で考えた時にもとても悩んでしまいました。ですが、今日の関先生の話を聞いて確かにこんな場合に「人権」が必要なんだな、大切にしなければならないなと感じることができました。なくてはならない大切なものなので、差別やいじめなどをなくして、幸せに暮らせる環境を守っていきたいです。

○関先生の話を聞いて、関先生は小学校の時のことを大人になった今でも後悔していると言っていて、私もまだ中学生だから大人になって人権のことで後悔したくないから、今のうちに後悔しない生活を送ろうと思いました。一人一人が人権を大切にしたら、いじめや差別がなくなるのかなと思いました。

○クラスの中で自分はいじめていないと思っていても、そのクラスの中の空気が相手を不快な思いにさせてしまうことがとても悲しいことだなと思いました。人権は「差別をしないこと」

だけではなく、そういう空気をつくってしまうこともいけないと思いました。クラスで誰か困っている人がいたら、相手の心に寄り添って相談に乗りたいと思いました。

○関先生の小学校の時の体験を聞いて、先生でもそう思うことがあったんだなと身近に感じられました。人権について考えることは毎日ではないけど、人権についての問題や大切なことは日常的にあるのかと思いました。人権教育センターにもまたいつか行ってみたいです。小学校ぶりだったけど水平社宣言の石碑はぼんやりではあったけどずっと覚えていました。書かれている言葉も覚えておきたいです。

2年生が職場体験学習を実施しました！



１１月４日（水）～６日（金）の３日間、２年生の職場体験学習が始まりました。校区内および校区近隣の９２の事業所にお世話になりました。初日は緊張した面持ちで仕事に取り組んでいましたが、２日目、３日目と日が経つにつれ慣れてきたこともあり表情もはつらつとしたものになりました。この体験を通して学んだことを今後の進路選択等に活かしていってほしいと思います。



『「人」のために「動」いて「働」く』という字になります。２年生のみなさんはこの３日間、誰かのためにがんばって働くことができましたか？これからの学校生活でもこの学びを活かしてほしいと思います。

この３日間、各事業所のみなさまには大変お世話になりありがとうございました。









第５９回 鈴鹿市中学校音楽会

１１月２日（月）、第５９回鈴鹿市中学校音楽会がイスのサンケイホールで行われました。これは、各中学校での合唱コンクールで上位２クラスが学校代表として出場し、各校の合唱を披露する場です。本校からは、最優秀賞の３年１組と優秀賞の３年６組が出場しました。本校は午前の部に出場しました。私も午前の部の５校の合唱を聴かせていただきましたが、他校とも決して引けを取らず、合唱コンクールの時よりもさらに仕上がっていたのではないでしょうか。



３年１組・６組のみなさん、神戸中学校の代表をみごとに務めてくれました。ありがとう！

ある日の新聞より



【「いってきます」の重み 】

「いってきます」と今朝は言っただろうか。「出て行くが帰ってきます」という意味で、再会を約束するあいさつだ。小学生の時、授業で「戦争に行く人は『行きます』と言って出た」「『いってきます』と言わず、永遠に会えなくなった」という話を聞いた。

その時初めて、言葉の重みや分厚さを実感した。何も考えず毎朝「いってきます」と言って、自然と再会する約束ができていた自分の環境を自覚するべきだ。

人は幸福の中にいる時、その幸福に気付く人は多くない。ある日突然崩れても、言葉一つで後悔したくない。でも毎朝の一言の重みや分厚さを知れば、一日一日が深くなるとも思った。

「いってきます」と言う時、何も考えていなかった。しかし言葉の芯をとらえ、自分の環境を大切にして生きたい。だから明日も「いってきます」と言おう。



【誰かの思いやり 感謝を】

「ごめんね、ありがとう」洗濯物を干していた私に、母が言った言葉だ。「ありがとう」はわかる。でも「ごめんね」は心に引っかかった。家事は親がするべきだという固定観念が、母の中にあるように感じた。親だって私たちと同じ人間だ。私が学校から疲れて帰ってくるのと同じように、親も仕事から疲れて帰ってくる。家事は親だけがすべきことだろうか。洗濯機を回す、洗い物をする、ごみを集める。簡単な家事は私でもできる。私の家は共働きだから、仕事で疲れた親が全ての家事をする必要はない。家事を休みたい日は休めばいい。してもらったなら、感謝を伝えることが大切だ。

当たり前だと思っている生活の裏には、誰かの行動や思いやりがある。その裏側に気づき、感謝を忘れずに伝えられる。そんな人に私はなりたい。



【温かい言葉を伝えたい】

言葉には人を支える力があると思う。普段何気なく交わしている会話の中でも、誰かの一言で気持ちが変わることがある。　そう考える理由は、言葉によって自分の見方が変わる経験をしたからだ。私は自分のできないところを先に考えてしまう癖があった。しかし友だちが努力している部分を認め、励ましてくれたことで、少し前向きな気持ちになれた。たしかに間違いを指摘したり、厳しい意見を伝えたりすることが必要な時もある。しかしそんな時も、相手がその一言をどう受け取るかしっかり考えて、自分で言葉を選ぶことが大切だ。

この経験から私は周りの人に温かい言葉をかけられる人になりたいと思った。日常生活の中で毎日会う人や家族には特に感謝や謝罪を絶対に伝えたい。相手の良さを感じた瞬間に話したり、笑顔でいたりすることを忘れずにいたい。